

2021年
6月16日号
NO 2号



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYA OYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習



6月3日のじんけん楽習塾は釜ヶ崎の歴史と今～がテーマです。講師は山田 實さん (NPO 法人釜ヶ崎支援機構) です。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により、ZOOMによるオンライン配信のみになります。

今後のじんけん楽習塾の会場での参加は、情勢を見ながら判断したいと思います。なお、会場の安中人権コミュニティセンターが使用可能になりましたら、会場参加者は20名以内になります。必ず、申し込みください。

みんなのふりかえり 2回目 6/2



木村知佐子さん (株式会社 ICB
パートナーコンサルタント/合同会社
WLBC 関西執行役員) の回

テーマ

「クロスロードダイバーシティ編 ～カードゲームで多様な価値観に触れてみよう～」

■ダイバーシティがテーマで、1つの事例をグループで話し合うという、シンプルでかつ、よく考えられている内容だと思いました。私自身も色々考え感ることができました。私自身が在日コリ

アンで、多様性で思ったこと言ってもいいですよというスタンスで研修をすると、それ差別やろという意見に直面したこと思いました。私は、何を言っても大丈夫な人に見えるようです。無邪気な偏見はまだしも、悪意の差別発言にはかなり消耗した思い出しました。学びの場が安心、安全であることが大切だなと感じました。

このワークを通して違う意見や立場の人を排除しない、差別しない、攻撃しない対話の力の育成が人権教育に求められていると感じました。

差別はダメだと臭いものにふた的でない学びのヒントが、たくさんあると思いました。(ぼん)

■多様性をカードゲームで学べるということとても楽しみに参加しました。

質問に「YES・NO」の2択で選ぶのは難しかったです。自分の今の価値観や知識で判断し、他の人の話を聴いて、選択に揺らぎがでる場面もありました。どっちが正解ではないですが、「そう考えればそうかな…」と思ったり。でも、どちらの判断になったにせよ、みんながより良い方法を考えているという姿勢が伝わり、意見も出しやすかったです。次回も楽しみにしています。

■固い頭がワークでほぐれました。人権課題についてのとりにあらず無難な答えを知っていても、現実的な個々の状況や多様な考え方も受け入れたうえで、自分の言葉で合意を得るのは本当に難しいと実感しました。弱い立場に置かれた当事者中心の考え方に偏りがちで、理想は目指すべきであっても、様々な視点について日常的に考えておく必要を感じました。(立石)

■今回の研修はグループワークがメインだったのでZOOMでどうなるのかと思っていましたが、ZOOMでも大変おもしろく考えさせられる研修でした。グループワークでの時間が少なかつたとも感じられましたが、強制的に画面が切り替わりメリハリがあり、それもまた良かったです。

今回の研修内容であります『クロスロードダイバーシティ編』ですが、カードを使い自分ならYESかNOかを考えるときに、「なぜYESなのか?」「なぜNOなのか?」を考えることが大変よく、もし自分がその立場になったらどうなのかを仮想体験することで実体験に

オンライン参加のみなさんへ



- 研修参加の際は、必ず映像はオンの状態で願います。(休憩中はオフでも大丈夫です。)
- 研修参加の際は、こちらが指示するまでマイクはミュートでの参加をお願いします。
- ZOOMに入室できない等でお困りの時は八尾市人権協会 072-924-9853 にお電話ください。
- ZOOMに入室できた後の連絡は、ホスト(事務局)あてチャット機能をお使いください。



役立たせることができるのではないだろうかと感じました。(しんすけ)

■対話型カードゲーム(クロスロードダイバーシティ編)に参加しましたが、グループディスカッションの時に事例に関して一斉に「YES」「NO」のカードを出すのが、このゲームの特徴だと思いました。こうすることで、他のグループメンバーの顔色を読む必要もなく、皆が同一ラインに立って安心して自分の意見を出せる場が形成されたと感じました。事例は「YES」

「NO」を判断する際にジレンマを感じるもので、適度にあいまいで多様な解釈が可能なので、このゲームは多様な意見を引き出しながら対話を促進するツールになると思いました。また、座布団も大喜利のようで面白く、オンリーワンに与えられる黄色の座布団は、黄金色と表現されていたのも適切だと思いました。これで、黄色は信号の「停止」の意味ではなく、少数意見の尊重であることがわかります。今回の事例の中では、性同一性障害の方のトイレの件が多く解釈がでて、いちばん話し合いがヒートしたと思います。

OYA OYA 川柳 YES「」「NO」 まずは旗色 鮮明に

■与えられた場面設定の質問に YES / NO を決め、参加者が自分の経験、現在の立場、環境や知識から想像を膨らませて理由を話し合うので、各々の描いたイメージが多様で選んだ理由もそれぞれで面白かったです。いろいろな立場や事情、考えに出会える良い機会になりました。オンラインでは時間の制限もあって難しかったと思いますが、できれば場面ごとにすべての

グループの YES/NO の内訳や理由を知りたかったです。対面ならできたのかも。

■昨日は、開始時間を間違っただけで遅い参加になり、申し訳ありませんでした。でも、事務局の方をはじめ、講師の方、参加者のみなさんが温かく迎え入れてくれました。感想は、講師の方の柔らかく適切な進行や参加者の皆さんのコミュニケーションの力で、オンラインにもかかわらず、意見交流が活発になされ、私ももっと発言したいと刺激をいただきました。限られた時間を自分が独占してはダメ…と少し譲りましたが(^ ^)。また設問がうまく練られているなあと感動しました。ただ、多様性とは何かをもう少し深めることもできればよかったかなと思いました。意見や価値感の相違を認め合うことは、まずは表現の自由や思想信条の自由にかかわることだと思います。多様性とは、ジェンダーや年齢、民族的マイノリティ、障害などの属性によって社会的に周縁化される人たちが差別なく社会や組織に参加できるということともっと直接つながるのではないのでしょうか。

OYA OYA 川柳 「はじまりの時間確認大事やね。」

(遅刻して参加を躊躇したけど参加できて感謝です) 標語ですね、すみません。

■ Yes, No カードがあることで、自らの迷う気持ちに、とりあえずのジャッジをつけることができました。この迷う気持ちとジャッジがあるからこそ、自分の意見が言え、また、対する意見にも共感することができたのだと思います。

何よりも難しい少数派の意見を聞きだしやすいワークで、民主主義とは、こうあるべきだ！を実感できる学習会でした。人権は、こうやって話し合いを重ねてきたもので、これからも私たちが作りあげていくものだからこそ、学習って大事だなあと感じます。本当は、ゲームなくとも、自分の意見を言える社会であればいいのに… (ke-ko)

連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYA OYA 通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。

問い合わせ

クロスロード ダイバーシティ編
カード一式



《問い合わせ・申し込み先》
株式会社クオリアWebサイトへ

